

令和5年2月14日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和5年2月14日(火曜日)

午後4時00分から午後5時20分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委 員 大久保 真紀 委 員 荒木 正
委 員 廣川 佳予子

4 欠席者

委 員 鷺尾 達雄

5 職務のため出席した者

教育部長	安達 敏幸	子ども未来部長	水島 幸枝
教育部副参事(科学博物館長事務取扱)	小熊 博史	教育総務課長	水島 正幸
教育施設課長	吉田 朗	学務課長	青木 佐土子
学校教育課長補佐	小林 哲晃	学校教育課主幹兼管理指導主事	稲毛 真哉
学校教育課主幹兼管理指導主事	玉木 暢	中央図書館長	梅沢 一茂
子ども・子育て課長	深澤 寿幸	子ども家庭センター所長	大久保 千春
保育課長	恩田 立也	学校教育課企画推進係長兼指導主事	大畑 勝義

6 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 内藤 貴幸

7 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第3号	条例制定の申出について（長岡市歴史文書館条例の制定）
3	第4号	条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）
4	第5号	条例改正の申出について（長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正）
5	第6号	条例改正の申出について（長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）
6	第7号	補正予算の要求について

8 会議の経過

（金澤教育長） これより教育委員会2月定例会を開会します。

（金澤教育長） 本日は都合により欠席の旨、鷲尾委員から通知がありましたので報告します。なお、教育長及び教育委員のうち、過半数の出席を満たしていますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、会議は成立することを報告させていただきます。それでは、本日の日程に移ります。

◇日程第1 会議録署名委員について

（金澤教育長） 日程第1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、大久保委員及び荒木委員を指名します。

◇日程第2 議案第3号 条例制定の申出について

(金澤教育長) 日程第2 議案第3号 条例制定の申出について を議題といたします。この内容と次に予定しています全ての議事日程及び協議報告事項の令和5年度長岡市教育委員会当初予算の概要については、公表前ですので非公開が適当ではないかと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) では非公開にいたしますので、関係者以外は退席してください。

_____会議規則第20条第2項の規定により公表しない_____

(金澤教育長) 次に、「令和4年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について」及び「令和5年度長岡市学校教育の共通実践事項について」事務局の説明をお願いします。

(小林学校教育課長補佐) 「令和4年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について」大畑学校教育課企画推進係長指導主事より説明いたします。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 「令和4年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について」説明いたします。実践事項の1点目は、人生や社会に生きる確かな学びです。各校において授業改善に向けた協議や、授業公開による授業改善にしっかりと取り組んでいることが分かります。また、全国学力調査の質問紙調査結果においても、自分で考える、話し合う、自分の考えを深めたり広げる、の3つの項目がすべて前年より向上していることが分かります。一人1台端末の効果的な活用が進んでいる成果と捉えています。課題として、各校が取り組んでいる研修内容を、長岡市が目指す授業イノベーションの具現につなげていくことがあげられます。具体的な内容については後ほど説明させていただきます。2点目は、長岡への愛着と誇りを育む学習です。「ながおか学」を活用したふるさと学習が活発に行われておりますので、今後も効果的な活用を進めていきます。また、平和学習につきましては、戦災資料館の児童生徒の来館者数が、ここ数年で最も多くなるなど各学校において確実な取り組みが見られます。課題としましては、ふるさと学習や平和学習のさらなる発展があげられます。3点目は、夢・志・自信を育む教育活動です。熱中・感動・夢づくり教育やコミュニティ・スクールの機能を活用し、地域素材や学習環境

を生かし、工夫した実践が行われています。課題は、子どもたちの様々な学びを学校内で止めることなく、興味のあることに対し、自ら地域や社会に出て探究する力の育成があげられます。4点目は、互いに認め合う温かな人間関係づくりです。各校で道徳教育や人権教育、同和教育に確実に取り組んでいる様子が分かります。人権教育強調週間や同和教育副読本「生きる」を活用した授業実践が全市立学校で行われています。課題は、今後も同和教育を中核とした人権教育を進め、好ましい人間関係づくりを身につけることがあげられます。5点目は、安心・安全で心やすらぐ学校づくりです。長岡市のいじめ認知件数は、全国や県に比べて非常に低いですが、経年変化で見ると前年度と比較して増加しています。これは、いじめを見逃さないための取り組みが浸透してきている成果と捉えております。課題としては、今後も継続していじめを積極的に認知することと、いじめの初期対応から保護者と連携した取り組みを進めていくことがあげられます。6点目は、一人ひとりを大切にされた支援です。各校において個別の指導計画の作成と活用について、肯定的な評価数値の高まりがみられますので、今後も充実させていきたいと考えております。課題として、授業での指導内容、学習内容を個別の指導計画の目標につなげる必要があげられます。7点目は、保幼小中及びコミュニティ・スクールにおける連携・協働です。園や学校が連携し、育てたい子どもの姿の具現を目指した目的連携や行動連携の取り組みを実施することができています。また、地域と連携・協働した活動の充実も見られます。課題として、園や学校の更なる連携による活動の充実や、4月から本格導入されるコミュニティ・スクールの仕組みづくりの推進があげられます。続いて、「令和5年度長岡市学校教育の共通実践事項について」説明します。令和5年度は7項目15の共通実践事項になっております。主な変更点2点について説明します。1点目は、人生や社会に生きる確かな学びの授業イノベーションの推進です。今回示す授業イノベーションでは、個別最適な学びを自分に合った学びと表現し、協働的な学びを多様な関わりを生かす学びと表現し、これらの学びの具現を目指すようにしています。また、これら2つの学びに実体験を伴う活動的な学びを効果的に取り入れることで、より学びの質が高められると考えております。各校には、この図の主旨を学校経営方針や校内研修に取り入れるよう指導するとともに、授業公開等の研修の際に、これら3つの学びについて、子どもの変容を視点と

して協議するよう指導します。なお、この図はすべての教職員が理解・実践できるよう、昨年よりも文字数を削減し、指導主事自作のオリジナルイラストで目指す学びの姿を表現し、文章も子どもを主語にしたものにしております。解説が必要な部分はQRコードにし、指導主事が動画で補足説明します。また、指導主事が実践した小中学校での授業提案も、360度カメラによる編集された授業動画と解説を、QRコードを読み取ることで見るができるようになっています。イラストの外郭は校舎・学校を表し、両サイドにはみ出している部分は、学びを学校内で止めず、自ら外に出て学びを深めてほしいという願いがこめられています。その際に、有効なツールとして4月から本格運用となるプラットフォームを入れてあります。2点目は、安心・安全で心やすらぐ学校づくりです。令和5年度はいじめと不登校の2つの事項に焦点化しております。いじめにつきましては、未然防止と早期発見の取り組みに努めるとともに、昨年作成した長岡市初期対応フローチャートを指針として対応するよう示しています。また、不登校については、本人や保護者の気持ちに寄り添い支援することと、関係機関との連携、個の状況に応じた支援の充実について示しております。説明は以上です。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(荒木委員) 安心・安全で心やすらぐ学校づくりの個の状況に応じた不登校に対する支援の充実とありますが、新しくどのような内容がありますか。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 不登校の児童生徒の居場所の確保と、不登校の児童生徒に対する支援を複数の目で行うという視点が入っております。

(荒木委員) 複数の視点で見ていく時に、人的な補償などあるのですか。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 新たにスクールソーシャルワーカーとコーディネーターの配置が認められましたので、2名のマンパワーを追加してサポートしていきます。

(荒木委員) 保幼小中及びコミュニティ・スクールにおける連携・協働とありますが、小学校の校長として勤めた立場から一番難しいことは保幼と小の連携協働です。例えば、阪之上小学校では40人位の児童が20園から入学するために、当時も連携と言われましたがほぼ出来ませんでした。市内の多くの学校は連携が取れていないと考えます。具体的に連携はどのように変わっていくのか教えてください。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 連携グループを作り、育てたい子どもの姿を具体的に共

有することが柱になります。キャリアパスポートである夢タクトに、必要な事項を示してそれを引き継ぐということで対応しています。

(金澤教育長) 例えばある小学校が、その小学校に入学する保育園や幼稚園すべてと連携が出来たら一番良いですが、そういった個々の連携ではなく、長岡市の保育園・幼稚園と長岡市の小学校をつなぐという意識で事業をしています。それが大きな枠で、その中で小1プロブレム解消のためではなく、どういう子どもを育てていくかという目的連携でやっていこうとしています。つまり、顔を合わせなくても、例えば思いやりのある子どもを育てたければ保育園はそういう活動をすればいいし、小学校においてもそういう活動を組んでいけばいいわけです。連続して願いをもって子どもを育てていけばいいということで取り組み始めています。目指す姿が何になるのかというと、多くの学校で非認知能力的の話になります。そうすると多少言葉は違っても、人を育てるという意味ではどこも同じような活動になります。例えば、どこかの保育園に行って授業をすとか、どこかの保育園の方が小学校にくるとか、そういう個々の連携ではない、連携を目指していこうというのが取り組みの内容です。結果的に個々の連携が生まれてくることもあると思いますが、小学校に入学する複数の保育園とすべて連携するというのは、物理的に難しいと考えています。

(荒木委員) 個々の連携は難しいため、大きな枠の中で育てたい子どもの姿を共有できる取り組みは重要だと思いました。

(大久保委員) 令和5年度の授業イノベーションの図については、非常に分かりやすく良かったと思いますが、どこまでの範囲で公開される予定ですか。保護者がホームページ等で閲覧することはできますか。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 授業イノベーションの図については、今週中にも全学校に配布いたしますが、教室に掲示していただくことも考えています。学校の判断で保護者に示すことも可能です。誰でも見る状態にしようと考えております。

(大久保委員) 子どもがタブレット端末を持ち帰るようになって授業が変わり、タブレット端末の使い方が分からず、困っている保護者の方が多いと思います。学校でのタブレット端末の使い方や使用する目的等を保護者も理解できると、より良い

ものになると考えます。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 授業イノベーションの図には解説が必要な箇所に、QRコードを読み取ることで授業動画と解説を見ることができるようになっていきます。是非、見ていただければと思います。

(廣川委員) 授業イノベーションのプランがわかりやすく非常に良いと思います。保護者が理解できると更に良いと考えます。子どもたちを主語にして作られているところに感心しました。子どもたちも教室に掲示されたりしているプランを見て、子ども自身がこれに基づいて学習を重ねているという意識が目的につながり、受動的な学びでなく、能動的に授業に参加できるのではないかと考えます。是非ふりがなを付けて教室に掲示していただきたいと思います。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) すぐに対応したいと思います。

(荒木委員) 当時の文部科学大臣は、黒板やノートと並ぶICTの活用と言われていましたが、ICTの活用だけが強調されて世に伝わっております。その中で、長岡市が授業イノベーションでの学びに、実体験を伴う活動的な学びを重点に置くことは、非常に意味があると考えます。それから、ICTは令和の教育におけるマストアイテムだとされており、子どもの学びの質の向上の中心に置くべきものはICTであり、ICTの活用によって教育の質を高めていくことが、授業イノベーションの中にあると考えますが、いかがでしょうか。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) ICTだけを捉えるのではなく、ICTを使わないと出来ない学びもありますが、それ以外の今までの学び、実体験を伴う学びのすべてを融合して個別最適な学び、協働的な学びを目指し学びの質の向上をイメージしています。授業イノベーションの図の中にあるように、ICTを使ったやり取りをしたイラストや、協働的な学びでタブレット端末を使用しない4人で討論しているようなイラストも載っています。それぞれ色々な活用法の仕方や学びを入れて個別最適な学びと協働的な学びを目指している結果が質の向上を目指すイメージです。

(荒木委員) 質の向上について考えると、これからの学びは授業イノベーションで子どもがICTを活用しながら自分の追究を進めていくこと、ICTの活用能力を高めることは今の時代には必須と言われていますが、もう一つ考えなければならないことは、長期記憶に残る授業にすることです。そこは丁寧に説明をしていく必要があ

ると考えます。OECD の PISA 調査が何年かに一回実施されますが、日本で実施する全国学力・学習調査と同じ目的で実施しています。なぜ、文部科学省が毎年全国学力・学習調査を実施しているかというと、文部科学省が求める全体的な学力が身についているかを調べるためです。ですから基準の一つとして全国学力・学習調査に対応できる学力がついているかが大きな指標になると思います。活用能力・追究力・長期記憶が質の向上に欠かせないと思います。

(金澤教育長) 他に御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) 次に、附属機関等会議報告について 事務局の説明をお願いします。

(中山スポーツ振興課長) 令和4年度第1回長岡市スポーツ推進審議会の内容について報告をします。スポーツ推進審議会は、市のスポーツ推進に関する重要事項を調査審議するため条例で定められた機関です。現在12名の学識経験者等からなります。委員は小学校体育連盟、中学校体育連盟、また教育委員会のスポーツ推進連盟等です。委員の意見を中心に報告いたします。令和4年11月15日に開催し、「スポーツ施設にかかる整備と受益者負担のあり方について」、「長岡ニュータウン運動公園野球場整備事業の取り組みについて」、「学校部活動の地域移行のあり方について」の3点について協議しました。「スポーツ施設にかかる整備と受益者負担のあり方について」は市町村合併後のスポーツ施設の中には無料で使用できる施設が多く見られます。経過した年数を考えて適切な受益者の負担を考えていくべきではという意見が出されました。その際に地域の実情、規模などを考慮しながら段階的な使用料の変更を行うという意見が出されました。「長岡ニュータウン運動公園野球場整備事業について」は、首都圏から利用する際に長岡ニュータウンは遠いと言われないか心配であるという意見が出されました。「学校部活動の地域移行のあり方について」は、総合型地域スポーツクラブが受け皿になる地域もあれば、学校以外の受け皿に困る地域もあるとの意見が出されました。中学校体育連盟としても地域移行をスムーズに行いたい、教職員への周知を含めた意識改革が重要になってくるという意見が出ました。現在、長岡市が地域の受け皿として3層構造からなる、

トップレベルの競技力向上を目的とした層分けについても考えていますが、若干懸念を感じるという意見が出されました。体を動かし楽しむニーズがあることも取り入れてほしいという意見が出されました。最後に、長岡市で平成 28 年度から令和 8 年度までの 10 年間で長岡市スポーツ推進計画として定め、スポーツ振興を図っております。オリンピック競技においても、スケートボードや BMX 等のアーバンスポーツが採用されてきている世界的な動きに、市としてもしっかりと取り組み、認識すべきだという意見が出されました。以上です。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) これをもちまして、協議報告事項を終了いたします。

(金澤教育長) 次に、催し案内等について説明願います。

(梅沢中央図書館長) ハイブ長岡で雪しか祭りが 2 月 18 日、19 日の二日間開催されます。米百俵号ミニが出勤して本の貸し出しを実施する、「雪しか祭りに米百俵号がやってくる」をハイブ長岡で開催いたします。次に、3 月 7 日から栃尾美術館で「館所蔵品展、春の展示ふるさとゆかりの作家たち」を開催いたします。

(小熊教育部副参事) 縄文楽検定を馬高縄文館にて 3 月 5 日に開催します。縄文文化を楽しく学ぶという主旨で毎年開催しています。主催は信濃川火焰街道連携協議会です。

(金澤教育長) その他、委員の皆様から何かございますか。

(廣川委員) 先週文部科学省で行われた教育委員協議会に出席して来ました。初等中等教育資格の動向についてと、分科会は 3 種類ありましたが、「いじめ・不登校支援について」の分科会に参加しました。心に残ったことを皆さんと共有したいと思いを残らせていただきます。今回初めて長岡市にもスクールソーシャルワーカーが配置されるということですが、全国的にも全中学校区にスクールソーシャルワーカーの配置という積極的な取り組みが見られました。いじめ対策においては、一人 1 台端末を活用して相談の充実が予防対策になるのではないかということ、また、教

職員の皆さんの察知感度を上げるために、タブレット端末に健康状態の入力や感情の変化を端末にデータとして蓄積することで変化が如実に分かり、誰でも把握できるのではないかという意見があり、実際に多くの市町村で取り入れられていました。タブレット端末に電話のボタンがあり、児童生徒が実際に話したい先生に繋がる仕組みを導入している市町村もありました。教職員の方と子どもとの信頼関係を丁寧に、タブレット端末を使って取り組んでいる様子が見られました。不登校特例校の設置が急務と言われているが、不登校の子供たちがどこに繋がれるのか、また、どこに居場所を持てるかをどの市町村も模索していました。校内に支援ルームを設けるなど、学校以外に設けるのではなく、校内の中にフリースクールを作るなど、空き教室を活用して不登校支援の取り組みを実施している市町村もありました。学校以外の居場所を市内広域に作るという試みがみられました。長岡市は中心部に学校以外の場所を設けていると思いますが、長岡市も広いため子どもたちの行動範囲の中で、居場所があるということがこれから大切になってくると思います。ミライエ長岡も子どもたちの居場所をテーマにしていますので、不登校支援の一つとして、バス等を使い不登校児童生徒が集える仕組みがあると良いと思いました。不登校の原因に、学習の遅れによって学校に復帰することが難しい傾向が増えているという意見がありました。学校に行きたい気持ちがあっても、学校の授業についていけるのかがすごく不安で足が遠のく原因となっている背景があるなら、不登校児童・生徒の学習支援により力を入れていかなければと思いました。スクールソーシャルワーカーの端末を利用した予防対策、不登校の特例校の設置や学校以外の居場所作り、そして学習支援などを含めたことが、子どもたちが何かしらに繋がるのが大切だということを痛感してきました。子どもたちがいかに繋がれるか、色々な視野で、私達も連携して取り組んでいけたらと感じました。グループ討議をしたなかで、長岡市のいじめフローチャート図が非常に好評でした。不登校バージョンのフローチャートがあるといいとの声をいただきました。

(金澤教育長) 他に報告事項はありませんか。

(金澤教育長) これをもちまして本日の定例会は閉会いたします。ありがとうございました。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員